

シネマセレクション 「川端康成と映画」

2020.12.8 (火) ~13 (日)

鎌倉市川喜多映画記念館



©1951東宝

めし



鎌倉に暮らし、この地で数多くの名作を遺した小説家・川端康成。視覚的な要素を含む彼の文体は映画との親和性が高いとされ、「伊豆の踊子」をはじめ川端文学はその多くが映画化され、自身も『狂った一頁』(1926年)の脚本を手がけるなど、映画に深く関わった作家でもありました。特別展「生誕100年激動の時代を生きた二人の女優原節子と山口淑子」にちなみ、川端とゆかりの深い原節子出演作2作品を上映します。

めし●

1951年／東宝／白黒／97分／35mm

原作：林芙美子 監修：川端康成 監督：成瀬巳喜男 製作：藤本真澄

脚色：井手俊郎、田中澄江

出演：原節子、上原謙、島崎雪子、杉葉子、杉村春子、小林桂樹

大阪に暮らすごく平凡なサラリーマン家庭に、夫の姪が東京から転がり込んできたことで、倦怠期を迎えた夫婦の間に波風が立ち始める…。朝日新聞での連載中に原作者の林芙美子が急逝したため、映画化に際しては独自の結末が用意された。生前から林と親交のあった川端は、葬儀委員長を務めて弔辞を述べ、映画では監修も引き受けている。名匠・成瀬巳喜男との初コンビ作で原は、所帯じみた主婦を演じ女優としての新境地を開いた。キネマ旬報ベスト・テンでは小津安二郎の『麦秋』に続く第2位を獲得。

山の音■

1954年／東宝／白黒／95分／35mm

原作：川端康成 監督：成瀬巳喜男 製作：藤本真澄 脚色：水木洋子

出演：原節子、山村聰、上原謙、長岡輝子、杉葉子、丹阿弥谷津子、中北千枝子

戦後の鎌倉を舞台に、夫の両親と同居する嫁が夫の浮気に耐えながらも、舅の優しさに心の安らぎを見出していく…。1949(昭和24)年から5年近くにわたり、川端が複数の文芸誌に断続的に掲載した連作をもとに映画化。原作の完結前に映画が製作・公開されたため、映画の結末はシナリオを手がけた水木洋子によって描かれている。鎌倉という美しい風景の中で紡がれる家族の物語という点において、小説・映画ともに高い評価を受けている。キネマ旬報ベスト・テン第6位。

※12/12(土)14時～

『山の音』+アフタートーク <文学と映画の『山の音』>

ゲスト：小田島一弘さん(鎌倉文学館副館長)

文学を軸に原作と映画の違いについてお話しいただきます。

鎌倉文学館 特別展「川端康成 美しい日本」12月23日(水)まで開催中！

※詳細は鎌倉文学館(0467-23-3911)までお問い合わせください。

上映日	12/8 (火)	12/9 (水)	12/10 (木)	12/11 (金)	12/12 (土)	12/13 (日)
10:30	●	■	●	■	●	■
14:00	■	●	■	●	■※	●

アンコール上映

11月1日(日)
から
チケット発売

鎌倉市川喜多映画記念館では、昨年度「友の会」会員の皆様に、もう一度見たい作品のリクエスト募集をおこないました。投票結果の中から、現在日本で上映可能な2作品を、このたび上映いたします。



モンパルナスの灯

1958年/フランス/白黒/DCP/108分

監督:ジャック・ベッケル

出演:ジェラルド・フィリップ、アヌーク・エーメ、リリー・パルマー、リノ・ヴァンチュラ

苦悩と悲運のうちに35歳で生涯を閉じたエコール・ド・パリの画家モディリアーニを描いた伝記映画。1959年、ジェラルド・フィリップもまた36歳でその生涯を閉じている。アヌーク・エーメの美しさが華を添える。

© 1958 Gaumont - Astra Cinematografica - Continental Film GmbH

灰とダイヤモンド

1958年/ポーランド/白黒/DCP/103分

監督:アンジェイ・ワイダ

出演:ズビグニェフ・チブルスキー、エヴァ・クジジェフスカ、バクラフ・ザストルジンスキ

ドイツが降伏した1945年5月のポーランドを舞台に、反ソビエトの抵抗運動を続ける青年が時代に翻弄される悲劇を描く。自身もレジスタンス活動に身を投じたアンジェイ・ワイダの『世代』『地下水道』につづく“抵抗三部作”。



©STUDIO FILMOWE KADR

上映スケジュール

12月2日(水)	10:30	モンパルナスの灯	14:00	灰とダイヤモンド
3日(木)	10:30	灰とダイヤモンド	14:00	モンパルナスの灯
4日(金)	10:30	モンパルナスの灯	14:00	灰とダイヤモンド+上映解説
5日(土)	10:30	灰とダイヤモンド	14:00	モンパルナスの灯
6日(日)	10:30	モンパルナスの灯	14:00	灰とダイヤモンド

映画鑑賞料金(展示観覧料含む):
一般 1000円 小・中学生 500円

チケット発売日:11月1日(日)

チケット取り扱い窓口:鎌倉市川喜多映画記念館

※作品によっては映像・音声必ずしも良好でないものがあります。
場合によっては上映素材・作品の変更がありますことをご了承ください。
※席数、入館時間等は状況により変更する場合がございます。
詳しくはお問合わせください。

※入館時、館内での感染予防対策にご協力ください。

Kamakura City Kawakita Film Museum
鎌倉市川喜多映画記念館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-2-12

TEL:0467-23-2500

HP: <http://www.kamakura-kawakita.org>

開館時間 9:00~17:00(入館は16:00まで)

休館日 月曜日(祝日は開館)、11月24日(火)

主催:川喜多・KBSグループ【鎌倉市川喜多映画記念館指定管理者】

